

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）
タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連携大学 名)	群馬大学
事 業 名	難治がんに対する重粒子線治療を基軸とした集学的治療の臨床研究推進並びに診療参加型臨床実習の充実
事 業 責 任 者	群馬大学医学部長・医学系研究科長 調 憲
事 業 の 概 要	
国民のおよそ2人に1人ががんに罹患する本邦において、有効ながんの治療法の開発は依然として急務である。がんの治療の中でも、本学では重粒子線を用いた放射線治療を含む集学的治療に重点的に取り組んできたが、昨今、主に若手医師が研究に割く時間が制限され、医師の研究能力の低下・大学の臨床研究能力の低下が危惧されている。そこで本事業では、研究支援者・教育支援者の配置、大学院生のTA・RA制度の拡充などを通じて、将来の研究医育成を視野に入れた医学部生の臨床能力とリサーチマインドの涵養、若手医師の研究環境の改善を図り、本学の重粒子線を用いた集学的がん治療の臨床・臨床研究・医学教育の体制の強化を目指す。併せて、実技教育のための機器整備とタスクシェアを意識した指導者の配置及び患者さんからの臨床実習同意取得率上昇のための動画資料や双方向的配信システムの構築を行い、臨床実習の充実と学生の医行為経験率の上昇を目指す。	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
○重粒子線がん治療についてのこれまでの先進的な研究が具体的に示され、目指す目的が定まっており、加えて国際展開や企業との共同研究にも言及している。 ○先端医療開発センターの中にデータサイエンス推進室の設置及び人員配置、さらに関連診療科とも有機的連携を図る計画となっている。 ○重粒子線治療に関する臨床研究を包括的に支援する取り組みが成されている。 ○臨床研究セミナーの開催、複数のワークショップの開催、様々な研修などが提示されている。 ○教育・研究支援者へのタスクシフト・シェアやICT技術導入による人的労力の削減目標を設定している。 ○臨床参加型臨床実習の同意取得率の向上を目指している。 ○臨床研究グループの具体的な施設名がいくつも挙げられている。 ○群馬大学での研究発展のみならず、日本国内施設全体の照射技術レベルの向上を目指している。 ○海外研究施設との間の若手研究者の相互訪問や企業の人材の受け入れなど、先進的で特徴のある取り組みに言及している。 ○医学生の実習教育に臨床検査技師を活用する。 ○臨床研究専門職WG、臨床実習同意書WGや外部委員も含めた評価委員会など、具体的かつ詳細に運営体制について記載されている点は評価できる。 ○事業継続のための資金確保について具体的に検討されている。 ○セミナーやワークショップの開催回数についても記載されており、練られた内容になっている。 ●世界の中でさらに秀でるための方法について明らかになると尚良い。 ●MD-PhDコースの学生が現状の規模が見づらく、新規採用数の評価が難しい。 ●医学系大学院生については現状維持ではなく、増加を目指すことが望ましい。 ●医行為経験数増加に向けた取組は良いが、臨床研究の現場を体験する等の実習についても検討することが望ましい。	